



環境かわら版

2026 年 9 月号(第 364 号)



プロから学ぶ連続講座 環境活動ステップアップ研修の参加者を募集します(P2)



「第 56 回愛知県野生生物保護実績発表大会」を開催しました(P4)



「東三河の水辺環境を親子で学ぶ夏休みエコツアー」を開催しました(P5)



モリゾー キョコロ
あいち SDGs アンバサダー ©GISPRI

愛知県は「SDGs 未来都市」として、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組を推進しています。県の環境に対する取組は、環境局 Web ページ「あいちの環境」で紹介しています。



「あいちの環境」(<https://www.pref.aichi.jp/site/kankyo/>)



プロから学ぶ連続講座 環境活動ステップアップ研修の参加者を募集します



愛知県では、NPO やボランティア団体等による森と緑の保全や環境学習などの環境活動の裾野を広げるとともに、活動のレベルアップを図るため、「あいち森と緑づくり税」を活用し、プロから学ぶ連続講座「環境活動ステップアップ研修」を2014年度から毎年度実施しています。

今年度は、2回開催します。

講義やフィールドワーク等を通じて、環境活動における課題の解決に役立つ知識や技術を学ぶことができます。

参加費は無料で、1回のみの参加も可能です。是非ご応募ください。

1 対象者

どなたでもご参加いただけます。

例えば、「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」の実施団体に所属する方、森と緑の保全活動や環境学習に携わっている方、これから行おうとしている方など。

2 参加費

無料

3 申込方法

次のいずれかの方法によりお申込みください。全2回一括での申込みのほか、各回の申込みも可能です。

(1) 申込フォーム

右の二次元コードからお申込みください。



申込フォーム

(2) メール又はFAX

Web ページから受講申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、お申込みください。

4 申込期限

第1回：10月5日（月）

第2回：10月27日（火）

各回とも 17:00 まで（必着）

詳細は Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/kankyostepup.html>)



ステップアップ研修 環境活動

検索

テーマ・日時	内容	場所	定員
第1回 「企画・広報」 10月12日（月・祝） 10:00～16:00	環境や自然に関する事業の企画・広報について、経験豊かな講師から講義やワークショップを交えて学びます。企画 中のイベントなどもブラッシュアップできます。 講師：志賀 壮史 氏 (特定非営利活動法人グリーンシティ福岡 理事)	まなびや もりの学舎 (愛・地球博 記念公園内)	20名
第2回 「野外活動のリスクマネジメント」 11月3日（火・祝） 10:00～16:00	組織で活かせる野外活動の事故予防について、経験豊かな講師から講義やワークショップを交えて学びます。安全 で笑顔あふれる野外活動ができるようになります。 講師：渡辺 直史 氏 (プラムネット(株))	もりの学舎 (愛・地球博 記念公園内)	20名



ワークショップ



フィールドワーク

環境活動推進課 調整・環境配慮行動グループ
電話 052-954-6241（ダイヤルイン）

「2025 年度ダイオキシン類調査結果」等について お知らせします



愛知県は、ダイオキシン類対策特別措置法に基づき 2025 年度に実施したダイオキシン類の環境調査結果及び事業者による測定結果を取りまとめました。結果の概要は、次のとおりです。

1 環境調査結果

県は、国土交通省中部地方整備局*、5 政令市（名古屋市、豊橋市、岡崎市、一宮市及び豊田市）及びその他 11 市町*とともに、大気環境、水環境（水質、底質及び地下水）及び土壌環境のダイオキシン類の調査を実施しました。

大気（28 地点）、底質（40 地点）、地下水（14 地点）及び土壌（14 地点）については、全地点で環境基準を達成しました。また、水質（41 地点）については、2 地点（半場川坂下橋（安城市）、油ヶ淵中央（碧南市））を除く 39 地点で環境基準を達成しました。

* 県との協議に基づき調査を実施

【環境調査結果】

調査項目	調査地点数	環境基準達成地点数 ^{*1}	濃度範囲	環境基準	単位 ^{*2}
大 気	28	28	0.0078 ～0.063	0.6 以下	pg-TEQ/m ³
水 質	41	39	0.034 ～1.3	1 以下	pg-TEQ/L
底 質	40	40	0.087 ～31	150 以下	pg-TEQ/g
地下水	14	14	0.013 ～0.21	1 以下	pg-TEQ/L
土 壌	14	14	0.0033 ～2.8	1,000 以下	pg-TEQ/g

*1 環境基準（大気、水質）は年間平均で評価

*2 TEQ とは、ダイオキシン類の異性体の中で最も毒性の強い 2,3,7,8-TeCDD の量に換算した値として表したものの



試料採取（土壌）

2 事業者による測定・報告状況（5 政令市分を除く）

ダイオキシン類対策特別措置法に基づく大気基準適用施設又は水質基準適用事業場の設置者は、毎年 1 回以上、「排出ガス」、「排出水」又は「ばいじん等」に含まれるダイオキシン類濃度の測定を行い、その結果を県に報告することが義務付けられています。

排出ガスについては 280 施設、排出水については 18 事業場から報告があり、全てが排出基準に適合していました。

また、ばいじん等については 122 施設から報告があり、1 施設を除き、ばいじん等の処理に係る基準に適合していました。基準を超過した施設については、ばいじん等の適正な処理を指導しました。

【事業者による測定・報告状況】

測定項目	報告済施設数*1		未測定 施設数
	基準不適合		
排出ガス	280	0	0
排出水*2	18	0	0
ばいじん等	122	1	0

*1 施設数は、2025 年度末の数を示す（ただし、報告後廃止した施設も含む。）。

*2 排出水の施設数は、事業場数を示す。

3 今後の対応

ダイオキシン類による汚染の状況を監視するため、引き続き環境調査を実施していきます。また、今後も事業場に対する立入検査を行い、排出基準及びばいじん等の処理に係る基準の遵守などを指導していきます。

詳細は Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/2025dioxin-kisya.html>)



愛知県 ダイオキシン類 公表

検索

環境活動推進課 環境影響・リスク対策グループ
電話 052-954-6212（ダイヤルイン）

「第56回愛知県野生生物保護実績発表大会」を 開催しました



1 目的

愛知県では、野生生物の保護に関する普及・啓発と、環境保全意識の高揚及び生物多様性の主流化を図るため、愛知の未来を担う子供たちが主体となって実践する取組を発表する「愛知県野生生物保護実績発表大会」を1971年度から開催しています。

2 大会概要

第56回となる今大会を、8月6日に刈谷市産業振興センターで開催しました。

午前中は高等学校4校、午後は小学校・中学校各2校の計8校から、野鳥や水生生物、昆虫など様々な生きものの保全活動や生物調査、外来種の駆除活動など、これまで継続して実施されてきた各学校の特色ある取組が紹介されました。

発表では、活動の中で遭遇する課題の解決に向けて、子供たちが地元企業や専門家、地域の方々と連携して、アドバイスを得ながら、自らの力で前向きに取り組んでいる様子が垣間見え、審査員をはじめ、参加者の心に大きく響きました。

参加児童・生徒の皆さんには、未来の生きものサポーターとして今後も活動を継続していただくとともに、多くの皆さんが愛知の自然や野生生物保護活動への関心を深めることにより、生物多様性の主流化へつながることを願います。

愛知県知事賞受賞校による発表の様子



愛知県立佐屋高等学校



豊田市立滝脇小学校

3 審査結果

【高等学校の部】

愛知県知事賞	
愛知県立 ^{さや} 佐屋高等学校	ドジョウでつなぐ食物連鎖
愛知県教育委員会賞	
愛知県立 ^{とよたにし} 豊田西高等学校	アメリカザリガニ幼体捕獲 ^{わな} の開発と有効性の検証
愛知県自然観察指導員連絡協議会賞	
学校法人 ^{さくらがおか} 桜丘学園 桜丘高等学校	湿地性希少植物タコノアシのビオトープへの移植と定着条件の検討
公益社団法人愛知県獣医師会賞	
愛知県立 ^{みやすいさん} 三谷水産高等学校	日本固有種の域外保全に関する活動

【小中学校の部】

愛知県知事賞	
豊田市立 ^{たきわき} 滝脇小学校	私たちの愛鳥活動 知ろう！滝脇の自然 守ろう！私たちの森 広げよう！地域へ
愛知県教育委員会賞	
岡崎市立 ^{おいだいら} 生平小学校	守ろう！野鳥がすみ続ける『ふるさと生平』
愛知県自然観察指導員連絡協議会賞	
岡崎市立 ^{かわい} 河合中学校	河合の宝 ゲンジボタル - 60年の伝統 新たな一歩 -
公益社団法人愛知県獣医師会賞	
岡崎市立 ^{とうかい} 東海中学校	未来へつなぐ ^{たすき} 襷 ～希少生物たちと共に生きる地域の未来～

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/yaseihappyoutaikai.html>)



〔自然環境課 生物多様性保全グループ
電話 052-954-6475 (ダイヤルイン)〕

環境分野の新規事業創出を目指す「共創事業促進プログラム(Sprout)」に参加する企業を決定しました

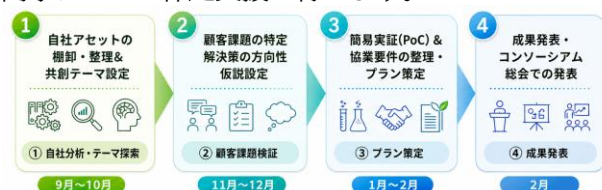


愛知県は、環境課題の解決に向け、革新的な技術・アイデアを持つスタートアップと企業の共創によるイノベーションの創出を目指しています。そこで、県内企業を対象に、「共創プラン策定プログラム(愛称: スプラウト Sprout)」への参加企業を募集し、この度参加企業を決定しました。(募集期間: 6月8日~8月19日)

今後、参加企業が持つ経営資源を起点に、新たな事業領域の探索から顧客課題の発見、解決策の具体化までを一貫して支援し、スタートアップとの共創による環境分野の新規事業創出を後押ししていきます。

1 Sprout の全体像

参加企業が新規事業プランを策定できるよう専門家チームが伴走支援を行います。



2 参加企業

企業名	主な事業内容
サーラエナジー(株)	都市ガス・LPガス事業、電気供給事業他
(株)デンソー	自動車部品、システム等の開発・製造・販売
長瀬産業(株)	化学品、合成樹脂等の輸出入及び販売
(株)ナ・デックス	接合機器の開発、製造、販売他
(株)メニコン	コンタクトレンズ・ケア用品の製造、販売他

[特設 Web サイト]

<https://env-innovation.pref.aichi.jp/program>



環境政策課 環境イノベーション推進グループ
電話 052-954-6982 (ダイヤルイン)

「東三河の水辺環境を親子で学ぶ夏休みエコツアー」を開催しました



東三河総局環境保全課では、SDGs の観点から東三河地域の自然環境の保全と再生を目的とする「東三河自然再生推進事業」を実施しています。

本事業の一環として、新城市にある県指定天然記念物の「ながのやま長の山湿原」と、近くを流れる矢作川水系の「ともえがわ巴川」で、水辺の生きものについて学習する「東三河の水辺環境を親子で学ぶ夏休みエコツアー」を8月8日(土)に開催しました。

当日は、天候にも恵まれ、小学生の親子を始め 24 名の方にご参加いただきました。

午前中は、普段は入れない長の山湿原の中に入り、ミミカキグサやタガメなどの生きものの観察を行いました。また、かつてこの湿原に持ち込まれ、在来種との交雑が懸念される園芸種のサギソウの除去作業についても学び、長の山湿原の生態系と国内外来種の問題について学習しました。

午後からは、巴川で水生生物調査を行いました。スナヤツメやコオイムシなどの希少な生きものの観察を通して、巴川に生息する動植物と周辺環境のつながりについて学習し、参加者の生物多様性に対する理解や関心を深めることができました。



湿原の生きもの観察



巴川の生きもの講座



水生生物調査



巴川の生きもの講座

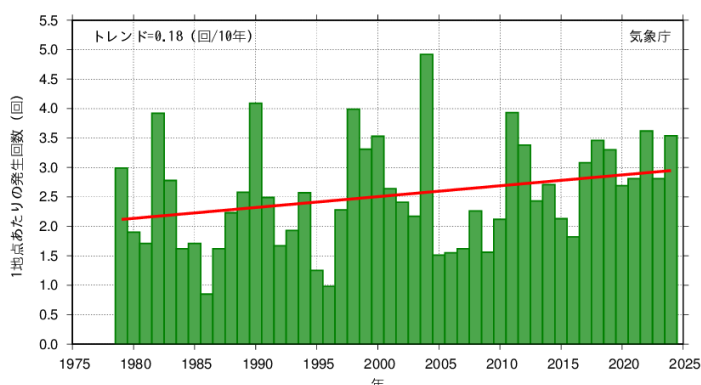
東三河総局 環境保全課 環境保全グループ
電話 0532-35-6113 (ダイヤルイン)

○ 気候変動と防災

東海地方では、1時間降水量 30mm 以上のバケツをひっくり返したような激しい雨の年間発生回数が増加しています。気候変動の影響による災害から身を守るためには、災害が起きた場合を想定して、事前に行動を確認しておくことが重要です。

家族や身近な人と一度、ハザードマップを活用するなどして、防災について話し合ってみましょう。

東海地方【アメダス】
1時間降水量 30mm 以上の年間発生回数



出典：気象庁. 気象観測データの長期変化の傾向
(<https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/jma-obs/index.html>)、2026年7月23日に利用

災害発生に備えた対策

- ☐ ハザードマップを活用する
- ☐ 災害情報アプリを活用する
- ☐ 地域や学校、会社などの避難訓練に参加する
- ☐ 避難場所や避難経路を確認しておく など

国立環境研究所のHPを基に愛知県が作成 (以下同じ)

○ 防災グッズを揃えましょう

2025年8月に実施された内閣府世論調査では、「風水害に備えた食料や飲料水等を準備している」と回答した人は44.6%でした。一般的には3日分、高層マンションであれば7日分が防災備蓄の目安と言われています。備蓄する物・避難時に持っていく物をリスト化した上で、毎年9月1日の「防災の日」に備蓄品の使用期限や、ラジオの動作確認をする習慣を作ってみましょう。

備蓄時のポイント

- ☐ 食料品や日用品のほか、簡易トイレやストレス軽減グッズなども忘れず準備しておく
- ☐ ローリングストック (常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法) を活用する
- ☐ 定期的に使用期限や機能するかを確認する
- ☐ ポータブル電源を用意する など

○ 「#適応しよう」キャンペーン

国立環境研究所気候変動適応センターの「#適応しよう」キャンペーンでは、気候変動によるリスクに備えるため、一人ひとりが実践できる適応行動を紹介しています。キャンペーン Web ページには、防災に関する適応行動もまとめられていますので、是非チェックしてみてください。

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/everyone>



愛知県気候変動適応センター
環境調査センター 企画情報部
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

※掲載のイベントや講習会等は、天候の影響等により、内容を変更又は中止する場合があります。

愛知県環境情報紙「環境かわら版」(第364号)

発行日 2026年9月7日

編集・発行 愛知県環境局 環境政策部 環境活動推進課
愛知県環境調査センター 企画情報部

URL <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>
(今月号とバックナンバーを掲載しています。)



掲載記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いいたします。